立花口古民家の実態調査と活用の考察

九州産業大学　学生会員　安武　陸　九州産業大学　正会員　山下　三平
九州産業大学　非会員　松野尾　仁美　九州産業大学　学生会員　野田　和哉
九州産業大学　非会員　廣重　実央

1.　はじめに

福岡県糟屋郡新宮町立花口区[1)]は「立花山」の登山口としての役割をもち、築100年を越える古民家が残存するなど歴史的資源が多い地区である。ここは高齢化が進み、生業である農業の後継者不足による縮退が顕在化しつつある。活気を取り戻し持続させるためには、その歴史的資源の実態を踏まえ、活用の方法を探り、実行することが急務である。

本研究では、新宮町立花口区の古民家の分布とその使用状況を調査し、それに基づいて現存する古民家の保全・活用方策を考察する。とくに認証制度の活用方法について考察することを目的とする。

2.　方法

本研究では、新宮町立花口区の現地調査と全国の認証制度の調査の2つを扱う。現地調査で得た家屋の種類や外観のデータをまとめ、全国の家屋の認証制度と照らし合わせる。こうして立花口区の家屋の保全・活用方策を検討する。

(1)　現地調査

対象地区である新宮町立花口区には年間約6万人の登山客が訪れる自然豊かな立花山(標高 367m)がある。立花口区の街路はその登山道としての役割を担っている。近くには最澄ゆかりの独鈷寺や立花宗茂の菩提寺である梅岳寺などの貴重な史跡が数多くあり、沿道には、古民家が建ち並んでいる。その家屋の分布・外観状況を詳しく把握するために調査シートを用意し、目視に基づいて記録する。調査シートの項目の概要は表－1の通りである。

図1　新宮町立花口区(ArcGISで作成)

表－1　調査項目

敷地種別	庇(位置・素材)	入口(用途)
建物の用途	外壁(素材・色)	しつらえ
階層	窓(形・素材)	敷地の境界線
屋根(形・素材)	門(素材・色)	景観阻害の要素

(2)　認証制度の調査

全国の認証制度については、主に古民家の保存活動を行っているNPO法人や県市町村のホームページを調査する。より詳しい調査のために各機関にメールで質問をする。

3.　結果

(1)　実態の把握

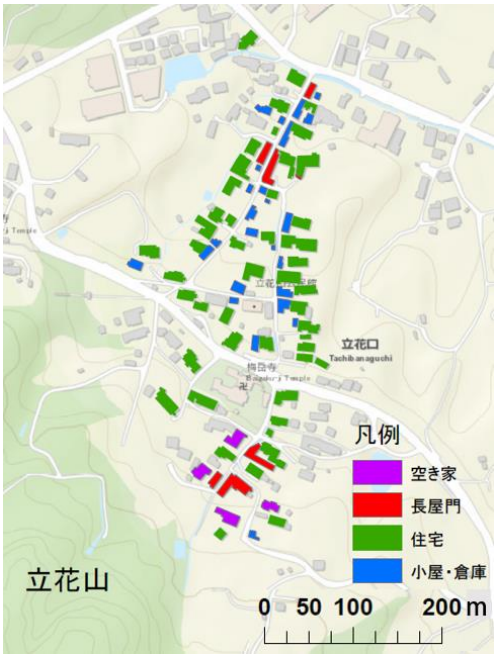

図2　用途別色分け(ArcGISで作成)

沿道には80軒の家屋がある。そのすべての外観調査を行った。図2はそれを用途別に示したものである。立花山(図2南西端)に向かうほどに急斜面の坂となり、空き家も目立つ。

建物は住居としての役割が主であり(図 3)、古くから残る長屋門が6つある。屋根の構造(図4)をみると、入母屋と切妻がとくに多い。

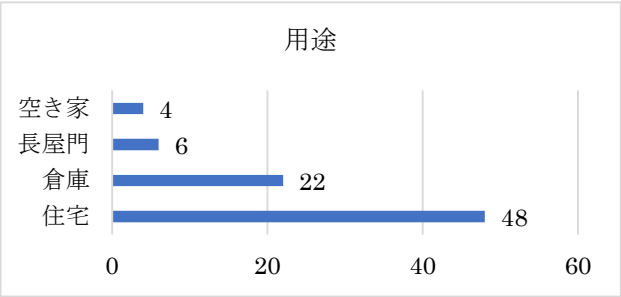

図３　用途

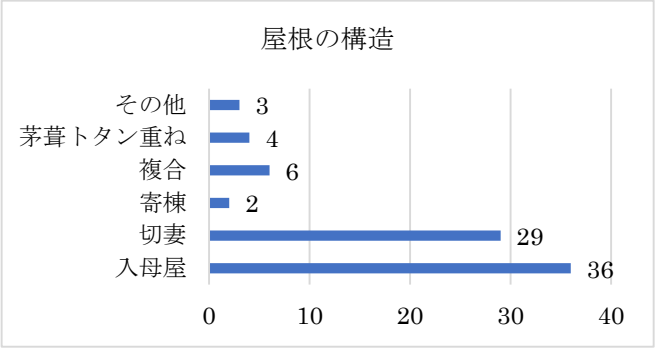

図４　屋根の構造

(2)　他地域の認証制度

立花口区の建物の形態に似た全国の認証制度を表－2 にまとめた。日本国内の古民家の認証制度の多くは、NPO 法人や行政が活動を支えている。長屋門に関しては、歴史を踏まえた、一軒毎の認証になっている。長屋門は一般的に行政主体の認証制度である。住居に関しては、歴史的な意匠に加え、色の統一感など、長屋門とは異なり複数の建物が一括して認証される傾向にある。

表－2　全国の認証制度例

都道府県	市町村	名称	団体	形態	特長
青森県	盛岡市	盛岡町家	盛岡市	町家	常屋 下屋付平入り
福島県	下郷町	大内宿	大内宿保存会	宿場町	ススキの茅葺き屋根
山梨県	甲州市	上条集落	山梨家並保存会	住居	切妻屋根 突き上げ屋根
長野県	東御市	海野宿	信州とうみ観光協会	宿場町 養蚕の村	本うだつ、袖うだつ、海野格子 旅籠屋造り(出桁) 茅葺き屋根 蚕室造り(気抜き)
長野県	塩尻市	奈良井宿	奈良井宿観光協会	宿場町	出梁造り
富山県	富山市	富山古民家	富山古民家再生協会	住居	茅葺屋根
三重県	伊勢市	おはらい町	伊勢市観光協会	参道街道	妻入りの木造建築
三重県	亀山市	関宿の町家	東海道関宿 まちなみ保存会	町家 寺院 宿場	平入低い二階建て 起り屋根 漆喰細工
京都府	京都市	京町家	京町家再生保存研究会	町家	平入り ウナギの寝床 紅殻格子
岡山県	高梁市	石火矢町ふるさと村	高梁市観光協会	武家屋敷	赤銅瞞の石州瓦とベンガラ色の 外観で統一された町並み
熊本県	熊本市	新町・小町町家	新町・小町町家研究会	武家屋敷 町家	通り庭(幅が狭い) 粘土瓦に油漆喰

4.　考察

ここでは、立花口区の特徴的な建築物である長屋門と、用途として最多である住居の認証制度の導入に向けた要件を検討する。

立花口の長屋門は上部に居住空間をもつユニークなものである。しかしその建築の経緯と、築年数が不明なものが多い。これらを調べることがまず必要である。

この地区の古民家のほとんどがかつては茅葺屋根であった。その名残として茅葺トタン屋根が 4 軒現存している。大内宿では [2]「重要伝統的建造物群保存地区」に指定された地区でも茅葺トタン屋根が存在したが、元の姿に戻す活動を住民が主要して、行っている。立花口区で茅葺トタン重ねの屋根をもとにもどす動機は乏しい。まずは長屋門の認証をすすめるのが妥当と思われる。

ところで野田は 2019 年に立花山登山客向けにアンケート調査を実施した [3]。それによれば立花山登山客は駐車場及びカフェの整備を強く望んでいる。貴重な古民家の保存とともに活用の可能性に大きな期待が寄せられる。金沢では「金澤町家」のブランドが、古民家活用の促進に役立っている [4]。比較的ハードルのひくい金沢の認証基準が立花口区でも参考にできるように思われる。

5.　おわりに

本研究では現地調査により新宮町立花口区の家屋の分布・外観について調べた。また、全国の認証制度と比べ立花口区における認証制度について考察した。

立花口区は特徴的な建築物の長屋門が 6 つ残り、まずこれらの認証を検討すべきである。またそのために、「金澤町家」の認証の方針を参照するのが有効と思われる。

参考文献

1)新宮町まちづくり－新宮町ホームページ
https://www.town.shingu.fukuoka.jp/
2)あの屋根！この屋根！－
一般社団法人　日本金属屋根協会ホームページ
http://www.kinzoku-yane.or.jp/feature/n_10/n_10-04.html
3)野田和哉(2020)　立花山登山客の意識・行動調査-登山道とまちなみの活性化のために-,　土木学会西部支部 研究発表会 講演概要集
4)NPO 法人 金澤町家研究会(2015). 金澤町家-魅力と活用法-, 能登印刷株式会社